

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 3月号

2016年3月3日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 5171

FAX (098) 864 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：島袋 元和（オリブ山病院）

在宅療養ガイド研修会 in 沖縄 2016 へ参加して

大浜第一病院 MSW 當銘由香

平成 28 年 2 月 14 日（日）13 時～沖縄県医師会館にて開催された上記研修会へ参加しました。

がん患者さんが安心してわが家で過ごすためには、患者様本人とそのご家族がその人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近の場所で過ごすための仕組みづくりが必要で、その一環として「地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクト」で「ご家族のためのがん患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド」が作成されたとのことです。

今回は作成されたガイドを広く活用してもらおうべく、今回の経緯とこれからの展望について帝京大学医学部腫瘍内科の渡辺先生に基調講演をして頂き、その後リレートークとワークショップで医療・介護・福祉の各職種が一堂に会し、ガイドを利用するタイミングや本人・家族との接し方、対応の仕方などについてグループディスカッションを行いました。

「在宅での療養を始める 意思決定とコミュニケーション」のワークショップで、私のグループは「療養の場の選択において（意思決定支援）」について、訪問診療医、訪問診療看護師、病棟看護師、包括支援センターケアマネ、病院 PT、訪問ヘルパーと立場の異なるメンバーで、“あくまでも患者様・ご家族が中心となるように”という事を念頭に置き、真剣に話し合い意見を出し合いました。

私たちは人を相手にする仕事をしている以上、これが絶対正解というものはありません。

その中で、いろいろな立場の方の意見を聴くことができ、とても参考になりましたし、改めて人と関わることの難しさと意思決定支援の重要性、各々が持つ死生観について考えさせられる良い機会となりました。

とてもハードな研修内容と時間配分だったこともあり、脳はフル回転。学びの多い研修でしたが、終了時には何歳か更けたのではないかと思う程、ぐったり疲労困憊状態でした。

そんなこともありすっかり忘れていたのですが、奇しくもその日、世の中はバレンタインデー。帰り道、笑顔で歩くカップルや楽しそうに会話をしながら歩く人の姿を見ながら、いつもなら

CONTENTS

研修報告	P1
2月定例会報告	P2
めだかの学校議事録	P3
運営委員会議事録	P3
研修部3月の予定	P5
はいさいワーク（求人・求職情報）	P5
コラム・編集後記	P6

「楽しそうだなー」とぼんやり見ているだけのはずなのに、「明日、この中の誰かと出会って一緒に悩んだりするのもかも知れないな」といつもと違って周りを見ている自分にびっくり。以外に自分って真面目だったんだなと自負しました。

今回の研修に参加し、がん患者さんだけでなく、病院で関わる全ての患者さんや家族が迷いながらも意思決定できるようなお手伝いが今後もできるよう精進していきたいと思いました。

*年度末にかけて毎日のようにどこかで何かしらの研修が開催されます。何か一つでも興味のある研修に参加して少し真面目な自分を発見してみたいかでしょうか？



2月定例会報告

大浜第一病院 玉城 静佳

2月17日(火) 南部医療センター・こども医療センターにて2月の定例会が開催されました。

今回は、認知症サポーター養成講座として、糸満市介護長寿課の福里ひろみ氏を講師にお迎えし、認知症について学びました。

日々、認知症の患者さんと接する機会が多いのですが、改めて「認知症とは？」と問われると、恥ずかしながら一瞬言葉に詰まってしまう、なんとなく分かっているつもりで過ごしていたことに気づかされました。

認知症を引き起こすといわれている病気の種類や認知症の症状など、基本的なところから分かりやすく講義していただき、症状を理解したうえでの具体的な対応のポイントなどの理解を深めることができました。

脱水が認知症を引き起こす要因となることが多いため、しっかりと水分を摂ることが認知症の予防につながるということが特に印象に残りました。

質疑応答の際には、「このような場合にはどうしたらよいのでしょうか？」など実際のケースと照らし合わせた内容の質疑が出ており、福里氏からすぐに実践できそうなアドバイスを受け、参加したみなさんはとても参考になったと思います。

参加された皆さんには、「認知症の人を応援します」という意思を示し、認知症サポーターの証であるオレンジリングが手渡されました。認知症サポーターは特別なことをする人ではありませんが、オレンジリングを身につけていることで、認知症に対する理解がありますと意思表示をすることにつながります。

笑いも交えながらとても分かりやすい講義内容で、認知症に対する理解を深める良い機会となりましたが、残念ながら参加人数が少なく、とてももったいないと感じました。

今回参加できなかった皆さんも機会がありましたら、ぜひ認知症サポーター養成講座を受けて、オレンジリングをゲットしてくださいね。

めだかの学校報告

中部徳洲会病院 渡名喜彩乃

2月9日(火)沖縄赤十字病院でめだかの学校に参加させて頂きました。

今回は事例検討会を行い、提供者は中部徳洲会病院の先輩である阿嘉さん、スーパーバイザーは大浜第二病院の安慶名さんでした。

内容は「救急搬送を頻回に行う精神疾患患者への対応の難しさ」についてであり、家族疎遠、他機関と協力し本人と向き合うも救急搬送件数は減らず、交通事故にてお亡くなりになってしまったというケースでした。

結果はわだかまりが残る内容でも、患者本人を支援するた為に他機関を巻き込み協力していた事、さみしいから救急に頼ってしまうという本人の気持ちを汲み取り、院内を含めて他機関と課題の共有方法を考えられた事はMSWとして良い点だったと安慶名さんのスーパーバイズによって学ぶ事が出来ました。

私自身も業務の中で本人の意思より家族疎遠という点などを重要視してしまう事があります。本人の意思を反映しながら、他機関と連携を図れるような支援を心がけていこうと思います。



平成28年2月運営委員会議事録

開催日時：2016(平成28)年2月22日(月)18:45~

出席者：樋口(司会)、島袋、當銘、池間、新垣、伊禮、奥平、石郷岡、仲地、新城(記録)

場所：那覇市立病院

研修部：池間(与那原中央病院)

研修部会報告

会長、副会長、執行委員の変更

次年度の研修計画

研修費用についての確認

講師謝金についての確認

3月の定例会

日時：2016(平成28)年3月5日(土)9:30~

場所：沖縄大学 本館1階

内容：第4回沖縄県ソーシャルワーカー学会&公開セミナー

めだかの放課後

日時：2016(平成28)年3月17日(木)19:00~21:00

場所：中頭病院 2階会議室(沖縄市知花6-25-5)

内容：調整中

めだかの学校

日 時：2016（平成28）年3月22日（火）19：00～

場 所：ハートライフクリニック2階会議室（予定）

内 容：生活保護制度について

講 師：宜野湾市生活福祉課 玉城夏子 氏

広報部：新城（小禄病院）

MSWニュース・・・3月号担当：オリブ山病院

社会活動部：伊禮（代理）

県民健康フェアの実行

事務局：當銘（大浜第一病院）

- ・ 入会者の基準を明確にしていく
- ・ 第28回リハビリテーション看護学会学術大会への後援について

会長より：樋口（那覇市立病院）

- ・ 11月12日、13日 国立病院総合医学会 沖縄大会の案内
- ・ 九州医療事業協会の中堅者研修会について、県から予算を出すことについての協議
- ・ 入退院支援デザイン事業について

次回理事会：3月14日（月）18：30～司会：新垣 書記：島袋 連絡係：奥平

次々回理事会：4月18日（月）18：30～



研修部 ~平成28年3月の予定~

定例会

下記の研修会にふりかえます。詳細は別紙案内を参照ください。

平成28年3月5日(土)9:30~

第4回沖縄県ソーシャルワーカー学会&公開セミナー

場所:沖縄大学 本館1階

めだかの放課後 予定ですので後日HPでご確認ください。

日時:平成28年3月17日(木)19:00~21:00

場所:中頭病院 2階会議室 (沖縄市知花6-25-5)

内容:確認中。

めだかの学校

日時:平成28年3月22日(火)19:00~

場所:ハートライフクリニック 2階会議室(西原町掛保久288)

内容:生活保護制度について

講師:宜野湾市役所生活福祉課 玉城夏子氏

はいさいワーク NO.77 (2016/2/26)

1. MSW 求職情報

沖縄大学 人文学部福祉文化学科 4年次

- ・2016(平成28)年3月卒業予定
- ・平良 佐和乃
- ・資格:社会福祉士取得見込み

O・N、女性、社会福祉士、急性期病院での勤務歴あり

- ・2016(平成28)年4月以降入職可

【問い合わせ先】

那覇市立病院 総合相談センター 樋口

電話:884-5111(内線:127)

2 . MSW 求人情報

那覇市立病院 （*詳細は、公式 HP に掲載中）

募集：1人

雇用期間：平成28年 4月1日～平成29年3月31日（更新可）

雇用形態：非常勤（フルタイム）

勤務時間：月～金 8：30～17：15

休日：土日祝祭日、年末年始、慰霊の日

資格：社会福祉士取得者

【問い合わせ先】

那覇市立病院 総合相談センター 樋口
電話：884 - 5111（内線：127）



コラム

私が若い頃、内地で一緒に働いていたアメリカ人後輩との経験をお話します。彼とは文化の違いから、よい関係を築くのは難しいと感じていました。

ある日、彼はホームシックとストレスから、私とケンカになってしまいました。彼との関係を修復したいと考えた私は、教育学者のマービン・J・アシュトンが書いた「心の通い合う家族を築く」という記事を見つけ、その通りにやってみることにしました。

環境を整える

私は、まず彼を食事に誘い、話しができる環境を整えました。

喜んで聞く

慰めになる質問をして、彼の不満を喜んで聴くようにしました。

気持ちを素直に話す

「沈黙は淵を作ります。張り詰めた沈黙は、不快感を与え、心を傷つけ、多くの場合、悪い結果を招きます。」日本人の私には非常に難しい事でしたが、自分の思いや感情を、いつも言葉に出して彼に伝えるよう努力しました。

裁かない

「間違いを指摘し、裁断を下すのは簡単です。大抵の人は、真心からの『誉め言葉』や『賛辞』の方が難しいものです。間違いがあっても、受け入れられていると言う気持ちを相手に持たせるよう努力しま

しょう。」お互いの考え方は違っていても、理解し合いたいという気持ちを持ち努力しました。

秘密は守る

「小さなことで信頼されれば、重要な問題や大切な話を打ち明けてもらえるものです。信頼し、安心して話せる相手のいる人は、本当に幸せです。」彼から打ち明けられた個人的な内容は、決して他の人に話さないようしました。すると少しずつ、色々なことをお互いに話せるようになっていきました。

忍耐する

「相手を誰かの面前で、正すことはさげましょう。穏やかな一対一の対話による方が、物分かりがずっと良いからです。」本当に忍耐が必要でした。それでも彼のことを一番理解しようと努力しました。

上記のことを、時間をかけて繰り返し、繰り返し行ったことにより、彼との関係は、目に見えて良くなっていきました。彼が転職していく頃には本当に良い関係になっていました。

現在「心の通い合う家族を築く」は我が家の家訓となっています。今では愛する妻が、私のもっとも信頼すべき友となり、ストレスの多いMSWの仕事を果たせるよう、支えになってくれています。

～編集後記～

次第に寒さも緩くなり春が近づいてきたと思えば、不意に寒くなるという近頃の天気振り回されながらなんとか健康を維持している今日この頃です。新しい年度に向けて心身ともに整えて望めたらと思います。

年度末の忙しい中、原稿を引き受けて頂きました皆様、ありがとうございました。(島袋)

